

笹澤豊教授略歴

昭和二十五年二月二十八日

茨城県石岡市に生まれる。

四〇年四月

茨城県水戸第一高等学校入学

四三年四月

東京大学理科二類入学

四六年四月

同大学文学部転入

四八年四月

茨城県庁入庁

四九年四月

慶應義塾大学大学院修士課程文学研究科入学

五二年四月

筑波大学大学院博士課程哲学・思想研究科入学

五七年三月

同大学院博士課程哲学・思想研究科修了

五七年十月

筑波大学助手 哲学・思想学系

六一年二月

筑波大学講師 哲学・思想学系

平成 三年二月

筑波大学助教授 哲学・思想学系

十年四月

筑波大学教授 哲学・思想学系

二三年三月

筑波大学定年退職

学会活動等

筑波大学哲学・思想学会（評議員 平成十年～現在）

日本哲学会

日本倫理学会（評議員 平成十五年～現在）

研究業績

I 著書

- 『ヘーゲル哲学形成の過程と論理』（和辻寛 昭和五九年） 昭和五八年 哲書房
- 『ヘーゲル哲学研究』（共著） 昭和六一年 理想社
- 『ヘーゲル読本』（共著） 昭和六二年 法政大学出版局
- 『規範の基礎』（共著） 平成二年 慶応通信
- 『講座ドイツ観念論 第5巻』 平成二年 弘文堂
- 『文明論の哲学』（共著） 平成三年 八千代出版
- 『〈権利〉の選択』 平成五年 勁草書房
- 『文化の受容と変貌』（共著） 平成五年 文化書房博文社
- 『哲学思索と現実の世界』（共著） 平成六年 創文社
- 『道徳とその外部——神話の解釈学』 平成七年 勁草書房
- 『小説・倫理学講義』

平成九年 講談社

『飢餓（食の文化フォーラム17）』（共著）

平成十一年 ドメス出版

『自分の頭で考える倫理―カント・ヘーゲル・ニーチエ』

平成十二年 筑摩書房

『環境問題を哲学する』

平成十五年 藤原書店

『ヘーゲルの国家論』（共著）

平成十八年 理想社

『哲学史の劇場―プラトンからヘーゲルまで―』

平成二十一年 筑波大学出版会

Ⅱ 論文（主なもの）

『無限者の形而上学―『精神現象学』以前のヘーゲルにおける実体・主体論―』

昭和五六年 『哲學』 三二号

『ヘーゲルの『哲学』と歴史的現実』

昭和五七年 『哲学・思想論叢』 第一号

『ヘーゲルにおける「神の死」と和解―『精神現象学』以前の刑罰論に則して―』

昭和五八年 『倫理学年報』 第三二集

『『精神現象学』と目的論』

昭和五八年 『理想』 六〇五号

『カントの自由論とヘーゲルの思惟』

昭和五九年 『哲学・思想論集』 第十号

「ニーチェにおける人間と心理」

「カントの道徳理論における「人間」の問題」

「ニーチェの心理学」

「ニーチェの自由論」

「ヘーゲル人間論の射程」

「ヘライト」の思想と自由の問題」

「ヘーゲルと幻想のスピノザ、あるいは知のポテンチア」

「民主主義国家の存続は可能か」

「共同事業としての国家創出にむけて」

「ユートピアをめぐるカントとヘーゲル」

「ヘーゲル国家論と地球環境問題」

「自由・民主主義道徳の根拠」

昭和六二年 『哲学・思想論集』 第十二号

昭和六二年 『倫理学年報』 第三六集

昭和六二年 『哲学・思想論集』 第十三号

昭和六三年 『哲学・思想論集』 第十四号

平成三年 『理想』 六四七号

平成五年 『哲学・思想論集』 第十八号

平成五年 『現代思想』 第二一卷第八号

平成八年 『哲学』 四七号

平成十一年 『日本倫理学会大会報告集』 一九九九年号

平成十二年 『哲学雑誌』 第一一五卷第七七七号

平成十三年 『環』 第五号

平成十三年 『哲学の探究』 二八号

〔環境倫理と未来世代問題〕

平成十五年 〔哲学・思想論叢〕 第二二号

〔環境経済学批判―環境税をめぐる〕

平成十六年 〔倫理学〕 第二十号

〔環境問題と社会的意思決定の倫理〕

平成二十一年 〔倫理学〕 第二五号

〔ロールズ正義論再考〕

平成二十二年 〔倫理学〕 第二六号

III 翻訳

D・ヘンリッヒ『ヘーゲル哲学のコンテクスト』(共訳)

昭和六二年 哲書房

IV 事典・辞典

〔ヘーゲル事典〕(項目執筆)

平成四年 弘文堂

〔哲学・思想事典〕(項目執筆)

平成十年 岩波書店

〔事典 哲学の木〕(項目執筆)

平成十四年 講談社

〔現代倫理学事典〕(項目執筆)

平成十八年 弘文堂